

区 ボランティア活動

糸田町「土曜サークル」

糸田町・前糸田町教育委員会 教務課長 村上 清

「土曜サークル」は平成14年より教育委員会が主体で始まりました。毎月第3土曜日の午前9～11時まで行っています。

平成8年の中央教育審議会の答申を受け、完全学校週5日制は、ゆとりの中で学校、家庭、地域が相互に連携しながら子ども達に「生きる力」をつけさせることを目的としていた。

そして、生涯学習審議会は、家庭や地域における体験活動の充実について具体的に提言しています。一例として「ナイフや包丁で果物の皮をむいたり、野菜などを切ったこと」「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」など生活体験や自然体験が豊富な子どもほど道徳感、正義感が充実しているなどが報告された。

町民一人ひとりが自らを高め、生活の向上を目指して、生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習推進体制の整備が進められた。中でも地区公民館の活性化は、重要な柱の一つです。

本町でも、町長を本部長に推進本部ができ、行動計画を策定するために作成委員やそれを協議する審議会等が次々にできて、第一次生涯学習まちづくり推進行動計画ができました。推進体制の事務局を社会教育が持ったことにより、従前の社会教育活動と交錯し、うまく推進していないのが現実である。

大人たちの学習や講座は昭和56年頃より受益者負担が定着していたので、ボランティアでの活動を好む人が多く、子ども達に何らかの形で関わっていききたい風潮が強いようで、子ども達との関わり(スポーツ少年団、子ども会活動)を見るとわかります。

学校週5日制が始まる前から「糸田っ子」を地域で育てようの考えは一部であったような気がします。私もスポーツ少年団(昭和53年にバレーボール、野球、剣道ができた)に関わっていました。

日常生活が色々なもののお陰で非常に便利になり、時間の観念が私たちの少年期とは相当違ってきました。家庭も地域も個人主義が横行し、社会性が欠落した子ども達が多くなりました。

このことから「土曜サークル」が必然的に始まったのです。最大のねらいは、サークルを通して子ども達の持っている「感性」・「想像力」・「探究心」などの潜在能力を引き出し、体験させることが大きな目的です。三浦清一郎先生が子どもは「やっていないことはできない」と強調なさっておられました。

はじめに生涯学習による町づくりを本格化するために、学習ボランティアの募集をつのり、地域の人材発掘に手をつけました。他薦、自薦で33講座40名の方が登録してくれました。

そこで、対象である小学4～6年生全員の前で自分の講座をPRしていただき講座が始まり約70名の参加がありました。講師には年1万円の謝金を出しています。料理教室は材料代として年間1千円を徴収しています。又、読み聞かせは、グループになり現在では自主活動をしています。

関連事業として、毎週水曜日(午後3時30分～午後4時30分)小学3・4年生を対象に小学校空室を使用しての「放課後子ども教室」は地域活動指導員やボランティアにより、国語、算数の基礎勉強や読み聞かせ等を行っています。約40名の子どもが参加しています。教育委員や社会教育委員も参加しています。ほかに、「越年もちつき大会」、この事業は本年度から学童保育も参加し約100名の参加があり、1人1回つけないような状態で盛況でした。「親子ふれあいキャンプ」も実施しています。



土曜サークル開講式です



人数が多くて大変です



集中しなさい！



みんな真剣に何か作ってます



餅をつくのも大変です



集中してまーす！

当初、小学校の担当をしていた先生の感想として、①子ども達の多くは、土曜日にミニバスや野球、習い事をしている子が多く、果たして子ども達は集まるのだろうかと心配していたが、思った以上に集まった。ただ、どの教室を選んでよいのかわからなかったため、どんなことをするのか尋ねてくる児童が多かった。そのため、第1回目は、各講座の講師の方々に、どんな内容をするのかプレゼンテーションをしていただいた。そのことによって、子ども達も今からどんな取り組みをするのか理解できたようで、興味や関心も高まったようである。②他の先生や保護者にこの事業について理解を深める必要があった。最初の1年は、管理職と自分だけの参加だったので、子ども達の活動の様子を話したり、通信「いとだ土曜サークル」を配布しながら、本事業についての理解を深めていった。その為、翌年からは、毎回教師が1名以上参加してくれるようになった。

現在、担当している先生の感想として、①専門知識を持った講師の方が指導して下さるので、学校だけでは味わえない充実感、有用感がある。②土曜サークルをきっかけに、学校での授業におけるゲストティーチャーにきていただいたりと、つながりを広げたり、深めたりすることが出来ている。③地域の方に講師で来ていただいているので、子ども達は土曜サークル以外にも地域で顔を合わせる機会があり、子ども達を地域全体で育てたり、見守ったりしていただくという点からも大変意義深い取り組みになっているなどの感想をいっておられました。

この発表を受けて過去を思い起こしてみると、事のあるなしはその時の人で決まります。

今の私では、この事業はできていなかったのではないかとつくづく思った。しかし、今日お集まりの皆さんは、どうかして明るく住みよい町、地域づくりを目指しておられるのか現状を満足せずよりよくして行こうと前向きな考え方をお持ちと考えます。ぜひ将来を担う子ども達のため頑張ってください。私も糸田を離れていますが、そこの行事などに参加して行こうと思っています。

この事業を通じて、異年齢の交流ができ、塾やスポーツ少年団に入っている子ども達が時間調整をして参加しています。

反面、人気のある講座(料理教室、パソコン教室)に子どもが集中したり、登録しているボランティアが十分に活用されていません。

子どもたち自身も無断で欠席したり、やる気のある子とない子の差がはげしく、行儀の問題などもこれからの課題です。

終わりに、子ども達が貴重な土曜日に参加していることへの思いは無駄にできません。

子ども達に家族以外に地域で相談できる人がいることを知らせたいし、学校以外でも気軽に話せる良き存在になりたいと思っています。決して生きがい対象といった大げさなものでなく、自分流の社会参加を子ども達がどう感じてくれるかという挑戦だと考えています。

問い合わせ先： 〒822-1392 田川郡糸田町2023番地1

糸田町教育委員会教務課 社会教育係 担当 植田政美

電話番号 0947-26-0038 FAX番号 0947-26-2526